

公益財団法人日下部・グリフィス学術・文化交流基金
令和3年度 第4回理事会議事録

1. 開催日時 令和4年3月22日(火) 13時30分から15時00分
2. 開催場所 Web会議
3. 出席者 理事総数 12名
出席理事 8名
理事長 細谷龍平
理事 春日野道治, 黒原繁夫, 花島 信, 林 和哉, 馬來田善資,
松田 透, 渡辺本樹
監事総数 2名
出席監事 2名
監事 堂 裕司, 馬來田善準
陪席者 4名
一葉正樹(福井県総務部大学私学課主事), 岡崎英一(福井大学国際地域学部長),
北村幸一(福井市グリフィス記念館職員), 方橋孝貴(福井青年会議所理事長)

4. 議 題

(1) 審議事項

- 第1号議案 150周年事業の総括と当基金の今後の在り方
第2号議案 令和4年度事業計画(案)及び予算(案)

5. 定足数の確認

理事総数12名中8名の出席があり、定足数を満たしていることを確認した。

6. 議事概要

(1) 審議事項

第1号議案 150周年事業の総括と当基金の今後の在り方

議長から、令和2年度、3年度を通して、①直営事業、②助成事業、③運営管理について総括した。①直営事業については、「福井で見るサンタの夢」事業はメディアでもかなり取り上げられ、一定の認知度向上に繋がった。単発イベントの「点」であったものが、次第に「点」と「点」が繋がってきていると言える。寄付収入や補助金は一定程度得られているが、未だ限定的で事業と運営全体を継続的にカバーしていくには程遠いレベルである。②助成事業については、コロナウイルス感染拡大の影響を受け、各助成先は試行錯誤が続いている。令和2年度の助成金支出は計画では250万円のところ実際の助成額は156.4万円となり、令和3年度は当初計画200万円のところ助成額71.2万円となる見込みである。③運営管理面では人件費の支出(派遣職員の給与)が増えている。理事長他大学職員の3名は無給の兼職で務めているが、極めて多忙であり、収支予算表に反映されない部分を含めて、当基金は全体に非常に労働集約的な組織となっている。

今後の在り方については、令和3年度実績の状態で推移すると8年後に、コロナ前の状態に戻すと6年後には、県と市からの出捐金がそれぞれ財産の25%を超えるイエローラインを迎えることになる。いずれにしてもこのままでは先がなく、上記の150周年事業の総括を踏まえた今後の再建の方向を考えなければならぬ。しかし次の2つの不確定要素があることから現時点でしっかりした展望を描くことは難しい。まず、ポストコロナ時代の国際交流の在り方がどのように定まっていくのかはまだ現時点でははっきりと見通せない。また、理事長自身が直営事業を実質的にコーディネートして展開できる前提となってきた福井大学での身分はあと1年で終了する予定であり、その後の事業展開の目処は立たない。6月の評議員会に向けて中長期的な再建計画を示す予定であったが、上記の理由から複数年にわたる計画を立てることは

難しく、現時点での最善の判断として、差し当たり令和4年度においては、次の二つの基本方針で臨むこととしたい。

直営事業については、「福井で見るサンタの夢」事業を継承した新名称の「幸福の足袋」事業を展開する。具体的には、①本「幸福の足袋」の出版、②幸福の足袋の制作・販売、③中学生短歌コンクール、④スタンブラリー、及び⑤留学生とのオンラインクリスマス交流会などを候補プロジェクトとして、福井大学国際地域学部の課題探求型学習(PBL)の授業で取り上げて、各団体、企業と学生との協働で実施する。このうち①の本は理事長自らが執筆する予定。②～⑤はそれと連動させる形で、学生が主体的に企画する。いずれにしても令和4年度は、福井がグリフィスによるクリスマスパーティの発祥地である史実が「幸福の足袋」というテーマのもとに地域興しに繋がるための「種をまく」時期になると捉えている。その後その種が育って定着するかどうかは、外部機関を含めて、これに「水をやる」機運と動きがどの程度自律的に出てくるかにかかっていると考えている。

助成事業については、令和4年度は前回の理事会で了承してもらった方針、すなわち①オンライン部分に限定した助成とし、②日下部・グリフィスの顕彰に実質的に繋がる要素を含むものに限定し、また、自己資金が4割以上ある事業であることを要件として、既に募集を行い、審査委員会で計112.5万円分の助成案件を採択した。

以上の説明に対し、各理事、監事、陪席者よりそれぞれ有益な意見が出されるとともに、全員異議なくこれを承認した。

第2号議案 令和4年度事業計画(案)及び予算(案)

事務局から、資料に基づき、令和4年度事業計画(案)について説明があった。まず、2月18日開催の助成対象事業の選定に関する審査委員会で承認された助成事業4件、助成額計112.5万円を説明し、プログラム内容に変更希望があった場合、助成額を含んだ軽微な変更については、理事長の判断に一任すること、また、諸事情によりプログラムの一部もしくは全てが実施されなくなった場合は、助成金の一部または全額の返還をお願いすることとなる旨補足説明があった。本理事会での承認後、各助成事業対象機関には4月に採択通知を送付する予定であるが、その際、グリフィスの顕彰に繋がる要素をそれぞれ依頼し、事業完了後の報告書と共にその内容を報告してもらおう予定であると述べた。その後、当基金直営事業の内容について説明し、令和4年度の事業費予算は合計490.5万円になると説明した。

事務局から、令和4年度予算案について資料に基づき、事業費、管理費の各予算、並びに資金調達及び設備投資の予定はない旨を説明した。

全員異議なくこれを承認した。

以上をもって、議事を終了し、閉会した。

以上、この議事録が正確であることを証明するため、出席した理事長及び監事は、次のとおり記名押印する。

令和4年3月22日

公益財団法人日下部・グリフィス学術・文化交流基金

議長 代表理事(理事長) 細谷 龍平 印

監事 堂 裕司 印

監事 馬來田 善準 印